

HAJKUKAI SOSHO

第 21 卷

句 集

翁 草

おきなぐさ

中野京子

Nakano Kyoko

豊かな感性と思索で

自然と心を詠む

中野京子俳句の軌跡

高橋将夫



どしやぶりの遠嶺の春光動きけり

朝粥のさくら色なり西行忌

二度くぐる茅の輪や近き水の音

啓蟄の日矢に微塵のまはりをり

虹色の水際にねむる鴨の群

蟬時雨いつせいに止む空の穴

ビー玉をはじけ出でたる夕焼かな

竜の玉八方に散る只管打坐

日の中に生まれし春の雪なりし

底紅の紅をたたみて散りにける

朝の日の空にとけだす枇杷の花

一本の千切大根真珠光

桃咲いて風の手のひら風の声

煙にも雲にもならじ土雛

春の灯のステンドグラスの底にをる

ボンベイや煉瓦の上の花なづな

ガウデイの作りかけなる春の空

鷹化して鳩となりたる砂の国

春愁の黒猫クレオパトラかな

春の星胡椒の匂ふ街にゐて

夏の昼杳き  
聖イ画コの壁つづき

ウオツカにやけたる舌と大夕焼

シヤガールの空とんでくる鯨かな

夏掛や闇の発光ダイオード

星の渦つぎつぎ湧けり寒造

メビウスの帯のいづこも明易し

鈴虫の夜とイカロスの昼なりし

円相の余白にあるよ木菟の耳

糸吐いて繭となりたる仏かな

見ゆるもの見えざるものも御神渡

半夏生草魂の通りしあとなりき

つまみあげ悉有仏性南無菜虫

おほどかにすくはれてをり仏手柑

発心にさくら落葉の紅残し

少女期を異国にゐたり敗戦日

外つ国にありし山の日翁草

アカシアの花の天婦羅母の椅子

蟬の羽化見てゐる子らのしじまかな

語  
ら  
ふ  
に  
烏  
賊  
の  
腸  
す  
つ  
と  
ぬ  
け

金  
色  
の  
草  
に  
ま  
ぎ  
れ  
し  
土  
筆  
摘  
み

櫟  
の  
実  
の  
こ  
ろ  
が  
つ  
つ  
て  
く  
る  
神  
の  
前

柿  
赤  
き  
大<sub>お</sub>  
八<sub>お</sub>  
洲<sub>やし</sub>  
国<sub>しま</sub>  
山<sub>ぐ</sub>  
日<sub>に</sub>  
和

花は葉に時の流るる水の底

黒揚羽土よりたちてゆきにけり

柳絮とぶ宴なりける虚空かな

逆光の夏日なりけりクレムリン

白肌を虚空に伸ばす大根かな

蕪蒸しほどよく透けり夫とゐて

時の嵩落葉の嵩を跳んでゆく

落葉踏む林の風の音のなき



句集 翁草 おきなくさ

俳句界叢書 第21巻

平成十九年七月九日 発行

著者 中野京子

発行者 大山基利

発行所 株式会社 文學の森

〒一六九・〇〇七五

東京都新宿区高田馬場二・二田島ビル八階

tel 03-5292-9188 fax 03-5292-9199

e-mail [mori@bungak.com](mailto:mori@bungak.com)

ホームページ <http://www.bungak.com>

印刷・製本 竹田 登

©Kyoko Nakano 2007, Printed in Japan

ISBN978-4-86173-606-3 C0092

落丁・乱丁本はお取替えいたしません。

